

定期作況報告

(第6号 平成13年10月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

9月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.5℃、3.7℃低かった。降水量は平年より26mm少なく、平年対比55%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より6.3時間多く、平年対比114%であった。

10月上旬：最高気温は平年より0.6℃低く、最低気温は平年より0.1℃高かった。降水量は平年より1mm少なく、平年対比96%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より4.3時間多く、平年対比111%であった。

10月中旬：最高気温は平年より0.1℃低く、最低気温は平年より1.1℃高かった。降水量は平年より2mm少なく、平年対比94%であった。降水日数は平年並であった。日照時間は平年より1.5時間多く、平年対比104%であった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	17.3	18.8	▲1.5	15.4	16.0	▲0.6	13.8	13.9	▲0.1	15.5	16.2	▲0.7
最低気温(℃)	4.9	8.6	▲3.7	6.0	5.9	0.1	4.8	3.7	1.1	5.2	6.1	▲0.9
平均気温(℃)	10.8	13.3	▲2.5	10.2	10.6	▲0.4	9.0	8.7	0.3	10.0	10.9	▲0.9
降水量(mm)	32	58	▲26	39	40	▲1	31	33	▲2	101	130	▲29
降水日数(日)	6	6	0	4	5	▲1	5	5	0	15	17	▲2
日照時間(h)	50.7	44.4	6.3	43.8	39.5	4.3	37.2	35.7	1.5	131.7	119.5	12.2

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : やや良

事 由 :

【**籾数**】 穂数が平年より少なく、一穂籾数は平年より中苗が多く、成苗が少なかった。このため、 m^2 当たり籾数 (m^2 当たり穂数 \times 一穂籾数) は中苗が平年並からやや多かったが、成苗は平年より少なかった。

【**稔実歩合・稔実籾数**】 稔実歩合は平年並以上で、 m^2 当たり稔実籾数 (m^2 当たり籾数 \times 稔実歩合) は中苗が平年並であったが、籾数の少なかった成苗は平年を下回った。

【**登熟歩合・ m^2 当たり登熟籾数**】 登熟歩合は平年より高く、特に成苗は平年対比115%であった。このため、 m^2 当たり登熟籾数は中苗・成苗ともに平年より多かった。

【**精玄米千粒重**】 品種間差が見られ、「ほしのゆめ」中苗は平年を下回り平年対比97%であったが、「きらら397」は中苗・成苗とも平年を上回り、特に成苗は平年対比105%であった。

【**精玄米重**】 粒厚1.90mm以上の収量は、「ほしのゆめ」中苗が平年対比97%で、「きらら397」の中苗および成苗は平年対比それぞれ112、113%であった。

品種・苗を込みにした収量の平年対比は107%で、良と判定されるが、千粒重および収量に品種間差が見られ「ほしのゆめ」中苗が平年を下回ったことと、「ほしのゆめ」の成苗が供試されていないことを勘案すると、本年の作況はやや良と考えるのが妥当である。

表2 収量構成要素・決定要素および収量

品 種 苗	m^2 当り穂数 (本)				一穂籾数 (粒)				m^2 当り籾数($\times 1000$ 粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	677	685	▲ 8	99	51.5	48.3	3.2	107	34.9	33.7	1.2	104
ほしのゆめ 中苗	689	773	▲84	89	49.6	44.9	4.7	110	34.2	34.3	▲0.1	100
きらら397 成苗	675	722	▲47	93	45.8	47.9	▲2.1	96	30.9	34.5	▲3.6	90

品 種 苗	稔実歩合 (%)				m^2 当稔実籾数($\times 1000$ 粒)				登熟歩合 (%)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	90.9	91.2	▲0.3	100	31.7	30.7	1.0	103	77.7	75.7	2.0	103
ほしのゆめ 中苗	90.6	91.8	▲1.2	99	31.0	31.5	▲0.5	98	81.5	79.5	2.0	103
きらら397 成苗	93.7	89.6	4.1	105	29.0	30.9	▲1.9	94	86.7	75.6	11.1	115

品 種 苗	m^2 当登熟籾数($\times 1000$ 粒)				精玄米千粒重 (g)				精玄米重(kg/10a)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	27.1	25.5	1.6	106	22.7	22.4	0.3	101	652	583	69	112
ほしのゆめ 中苗	27.9	27.3	0.6	102	21.9	22.6	▲0.7	97	571	586	▲15	97
きらら397 成苗	26.8	26.1	0.7	103	23.7	22.6	1.1	105	666	589	77	113

注1) 平年値は平成6～12年の7か年から平成6年と平成10年を除いた5か年の平均値。

ただし、「ほしのゆめ」は平成9～12年の4か年の平均値。

2) ▲印は平年に比べて減を示す。

3) 稔実歩合：触手で求めた。

4) 登熟歩合：比重1.06の塩水選で求めた。

5) 千粒重・精玄米重：粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

2) 秋まき小麦 : やや不良

事由: 播種が遅れたため、草丈、茎数、葉数はともに平年を下回っている。
したがって、目下の作況はやや不良である。

表3 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名	播 種 期 (月日)			草 丈 (cm)			茎 数 (本/m ²)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	9.17	9.13	4	15.0	22.2	▲7.2	829	1053	▲224
	9.17	9.13	4	14.2	21.3	▲7.1	799	1119	▲320

品 種 名	葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	4.0	4.7	▲0.7
	4.4	5.0	▲0.6

注1) 平年値は、前7か年中、平成7年、9年を除く5か年の平均値。
2) ▲は平年より減を示す。

3) とうもろこし: 良

事由: 収穫時の熟度は平年並で不稔個体割合は平年より低かった。乾総重、乾雌穂重とも平年より重く、総体の乾物率は平年並かやや低かった。この結果、TDN収量は対平年比114%~116%と平年を大きく上回った。
したがって、作況は良である。

表4 とうもろこしの収量

品 種 名	収 穫 時 熟 度			不 稔 個 体 割 合 (%)			乾 総 重 (kg/10a)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	黄中	黄中	—	8.3	9.0	▲0.7	1881	1650	231
	黄初	黄初	—	1.7	16.3	▲14.6	2060	1836	224

品 種 名	乾 雌 穂 重 (kg/10a)			総 体 の 乾 物 率 (%)			T D N 収 量 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	対 平 年 比 (%)
キタユタカ P3732	933	758	175	26.9	26.8	0.1	1345	1164	181	116
	927	753	174	26.6	27.1	▲0.5	1447	1266	181	114

注1) 平年値は、前7か年中、平成10年、12年を除く5か年の平均値。

2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) ▲は平年より減を示す。

4) 大豆 : やや不良

事由：成熟期は「トヨムスメ」で平年より3日遅く、「トヨコマチ」では平年並であった。両品種とも、主茎長及び主茎節数はほぼ平年並であった。分枝数は「トヨムスメ」で平年並で、「トヨコマチ」では平年より多かった。着莢数は「トヨムスメ」で平年よりかなり少なかったが、「トヨコマチ」では平年より多かった。
したがって、作況はやや不良である。

表5 成熟期の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	10. 6	10. 3	3	65	64	1	10.2	10.3	▲0.1
トヨコマチ	9.26	9.26	0	67	66	1	11.2	10.7	0.5

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.0	6.8	0.2	69	80	▲11
トヨコマチ	7.7	6.2	1.5	81	76	5

注1) 平年値は、前7か年中、平成6年、7年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

5) 小豆 : 良

事由：両品種とも百粒重が平年より重かったため、子実重は平年より26%多収となった。また、屑豆率は両品種とも平年より低かった。
したがって、作況は良である。

表6 小豆の収量

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	対平年比(%)
サホロショウズ	403	320	83	126
エリモショウズ	400	318	82	126

品 種 名	100粒重 (g)			屑 豆 率 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	14.7	13.3	1.4	0.9	2.8	▲1.9
エリモショウズ	14.1	11.8	2.3	1.4	2.2	▲0.8

注1) 平年値は、前7か年中、平成12年を除く6か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 平年並

事由: 「農林1号」は枯凋期が平年よりかなり早く、上いも収量と中以上いも収量はそれぞれ平年比92%、85%と少なかった。でん粉価は平年並で、でん粉収量は平年比90%と低かった。

「男爵いも」は枯凋期が平年より9日早かったが上いも収量と中以上いも収量はそれぞれ平年比115%、111%と多収を示した。でん粉価はほぼ平年並であった。

このように、平年に比べ早生種は多収を示したが、晩生種は低収となった。

したがって、作況は平年並である。

表7 収穫期のばれいしょの生育、収量

品 種 名	枯凋期 (月日)			上いも重(kg/10a)			中以上いも重(kg/10a)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	9. 9	未達	—	5034	5486	▲452	4157	4907	▲750
男爵いも	8.17	8.26	△9	5099	4440	659	4139	3743	396

品 種 名	でん粉価 (%)			でん粉重 (Kg/10a)			収 量 平 年 比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	上いも	中以上	でん粉
農林1号	14.3	14.3	0.0	670	748	▲78	92	85	90
男爵いも	13.7	13.4	0.3	—	—	—	115	111	—

注1) 平年値は、前3か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

7) てんさい : 平年並

事由: 今期はほぼ平年並の気温で、降水量が平年より多く経過したため、生育は順調であった。

収穫は平年より1日遅い10月18日に行った。茎葉重は、生葉数が少なかったことから、平年を若干下回った。土砂付き根重は、平年の土砂引き根重に比べて「モノホマレ」では若干多く、「ストーク」では若干少なかった。根中糖分、糖量は現在分析中である。

したがって、目下の作況は平年並である。

表8 収穫期のてんさいの生育、収量

品 種 名	茎 葉 重 (kg/10a)			根 重 (kg/10a)			根 中 糖 分 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	5091	5267	▲176	(8157)	7951	(206)	—	16.33	—
ストーク	4746	4834	▲112	(6907)	7233	(▲326)	—	17.66	—

品 種 名	糖 量 (kg/10a)			平 年 比		
	本 年	平 年	比 較	根 重	根中糖分	糖 量
モノホマレ	—	1284	—	—	—	—
ストーク	—	1271	—	—	—	—

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

「ストーク」の平年値は、前4か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 根重は本年は土砂付き重量を、平年は土砂引き数量を示す。